9/１４ CCDO協働事業委員会議事まとめ

20200916 協働事業委員会 渡辺

参加人数：8名

* はじめに岩佐委員長より9/8国際デザインセンターへの共催の依頼について説明。先方は伊藤社長、中野専務、川森総務部長、湯沢事業部副部長の4名、CCDOからは委員長、事務局長以下総勢5名＋オブザーバーの黒田さん出席。渡辺より趣意書について説明。共催に快諾いただきました。また、グループワークなどは場所の提供も可能とのことでした。
* 渡辺よりセミナーのテーマと、デザイン思考に基づくグループワークの流れについて説明。グループワークでは1テーマに絞り皆でアイデアを出す方法を提案。
* セミナーについて、講演はリモートで行い、グループワークは状況によってリモートだけでなく、リアルも考えてはどうか。リモートの場合は他グループの状況も共有できると良い。
* 最終回には全グループに発表の機会を提供したい。実際に言葉に出すのが有効。褒章なども考えてはどうか。
* コロナ禍のこの時期、参加者が何を持ち帰られるか分かると良い。一般の人がこれに参加しようという気になるか、まだ見えてこない。
* テーマについては「コロナ禍をチャンスに変える方法を探る」でなく、「コロナ禍をチャンスに変える方法」というような明快さが求められる。
* 変革を求められる時代に、デザイナーの経験と見る目に触れるのは意義がある。デザイン思考はスピード感をもって継続的に取り組める利点がある。
* そもそもデザイン志向は実際に使えるか？
* プロの思考方法として、ソフト面から多面的な見方ができる。
* テーマについてこんなのはどうでしょうか。「コロナ禍の中でできるヒット商品づくりのプロセス」、「ソーシャルディスタンスから生まれるヒット商品づくりのプロセス」
* 講演はリモートで問題ないが、グループワークはテーブル上にB紙を敷いて付箋を貼っていくような作業ができないので難しいという課題が提起された。ファシリテータの技量に依存するところが大きい。
* これに対し、ZOOMのホワイトボード機能を使用する案が出された。実際にやってみると描きにくく機能しないことが分かった。
* 次に画面共有を使用する案が出され、Key noteを使用して実際にワードやイラストの貼り付けを行った。この方法は付箋を貼り付けていくような感覚が再現でき、グループで共有しながら使えそうな印象。
* オンラインで、生でモノができて行くのを見るのは良い。また、オンラインで情報が得られる。
* 上記手法を再現するには各グループに専任の書記を1名配置する必要がある。
* 一度シミュレーションしてみよう。
* アイデアシートの見える化は参加者が持ち帰る良いお土産になる。この辺り、リーフレットに表現できると良い。
* 何よりもどうやって人を集めるかが問題だ。名商の協力も仰ぎたい。
* 委員会への参加人数が少ない。伝介の積極的な登録をお願いしたい。
* 次回は28日の週に行う。伝介を回します。引き続きテーマ案のアイデアよろしくお願いします。

皆様、大変有意義な議論をありがとうございました。

まとめ

IdcNとの顔合わせ セミナーの共催を確認できた。

セミナーテーマについて インパクト、明快さ、分かりやすさ

 参加者が何を持ち帰られるかが分かる。

グループワークについて アイデアシートを貼り付け、見える化するプロセスを画面共有する方法は、デザイナーならではのリモートセミナーとして革新的であり価値を出せるのではないか。